

1 学校教育目標

心身ともに健全で広い視野に立つ日本人
(として社会に貢献できる生徒の育成)

2 具体目標

＜スローガン＞「若き誇り いのち 輝く 仁多中学校」(校歌より)
三本の柱 ○学習に集中して取り組む
○生徒会に参画する
○部活動に熱心に取り組む

3 経営の基本方針(めざす学校像)

「魅力ある学校」づくりをめざす。

○生徒が行きたいと思う学校

「だれもが安心して生活できる学級・学校」づくりをめざし、「進路保障」を柱とした人権教育の推進により、一人一人を大切にした教育活動の推進に努める。

○保護者が行かせたいと思う学校

「学校は子どものためにある」という考え方を大切にし、生徒や保護者、地域住民との信頼関係を構築し、生徒とのふれあいを大切にしながら、明るく、活力ある学校づくりをめざす。

○地域が応援したいと思う学校

「地域の中にある学校」の考えを大切にし、学校と家庭、地域との連携を深め、地域に開かれ、信頼される学校づくりをめざす。

○教職員が働きたいと思う学校

相互信頼の上に立つ職員の和と協働体制を確立し、明るく活力のある職場づくりに努める。

4 めざす生徒像

- 礼儀正しく、思いやりのある心豊かな生徒
- 自ら学び、考えを深め、表現できる生徒
- 心身を鍛え、たくましく、粘り強く生きようとする生徒
- 人とのかかわりをとおして、共に成長していく生徒
- ふるさとへの愛着と誇りをもち、未来を切り拓こうとする生徒

5 めざす教職員像

- チーム仁多中の一員としての誇りをもち、共に、信頼関係づくりに努め、積極的に行動する教職員
- 鋭い人権感覚をもち、生徒や同僚を大切にする教職員
- 生徒・保護者・地域に信頼される教職員
 - ・報・連・相を大切に情報共有と共通認識に立った組織による教育の推進
 - ・研究授業や研修会への参加を通して授業力の向上と人権・同和教育に関わる指導力の向上
 - ・法規に基づいた公教育、誠意・創意・熱意ある教育の推進
 - ・対話を重ね、よりよい変化を求める教育活動の推進
- ワーク・ライフ・バランスがとれ、心身ともに健康な教職員

6 学校経営の重点

- 徳・知・体のバランスがとれ、感性豊かで、主体的に行動できる生徒の育成
- 自己有用感を高め、互いに認め合い、高め合うことのできる生徒の育成
- ふるさとへの愛着と誇りをもち、地域の一員として、貢献しようとする生徒の育成

7 学校経営の重点の具体化

○確かな学力の育成（知）

- ・一人一人に応じた指導・支援による「生きる力」の基礎となる学ぶ意欲と学び方、確かな学力の育成
- ・教員同士の学び合いを大切にした授業力、指導力の向上
- ・学習への興味・関心を高める授業の工夫
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした学習過程の質的改善
- ・ICTの効果的な活用による情報活用能力の育成
- ・学習規律の徹底（チャイム着席、あいさつ、発言の仕方等のルール of の徹底）
- ・めあての提示、振り返りを確実に実施する授業づくり
- ・ペア・グループ活動や話し合いによる言語活動の充実
- ・学校図書館を活用した授業の実践
- ・教職員の肯定的評価言による学習意欲の向上と自己肯定感の醸成
- ・家庭学習の質・量の充実（次時につながる宿題や自学ノートの工夫、90分以上の学習時間）
- ・キャリア教育の視点を意識した授業の実践と計画的な進路指導の推進
生涯にわたる自ら学ぶ意欲や態度、自分自身を知り、自分の価値に気づくことにより、集団生活における自分の役割と責任を自覚し、他者を尊重する態度を育成する各教科、領域での指導
ふるさとの人々の様々な生き方、多様な価値観に触れ、自己の生き方について自覚を深める体験的な学習の実施
生徒一人一人が将来の生き方についての考えを深める進路相談や個別懇談の実施

○思いやりのある心豊かな人間性の育成（徳）

- ・進路保障を柱とし、一人一人の人権が尊重される人権・同和教育の推進
- ・生徒理解を重視した子どもの心に寄り添った生徒指導と個に応じた自立を促す特別支援教育の推進
- ・あいさつ、返事、聴くこと、清掃等の生活習慣の確立 「凡事徹底」
- ・温かみのある集団、人間関係づくりをめざす学級活動、学年活動の実践
- ・体験活動を生かした道徳教育、学級活動、総合的な学習の時間の推進
- ・自己有用感が高まり、達成感が味わえる生徒会活動、学校行事の実践
- ・豊かな心を育む読書活動の充実（朝読書、読み語り）

○たくましい心身の育成（体）

- ・運動好きを育て、基礎体力をつける体育活動の推進
- ・自他を大切にし、「命」をテーマとする教育活動の推進
- ・情報モラルに関する指導とメディアコントロールによる生活習慣改善のための教育実践
- ・人間形成を目的とした部活動の推進（礼儀、連帯感、感謝、忍耐等、日頃の生活につながる指導）

○ふるさとを愛する心・態度の育成（ふるさと愛）

- ・地域の資源（ひと・もの・こと）を積極的に活用した体験・学習を充実させ、ふるさとへの愛着や誇りを醸成するとともに、地域の課題に気づき、関わろうとする意欲を育てるふるさと学習の推進
- ・地域の一員として、地域行事への積極的参加やボランティア活動の推進

8 本年度の基本姿勢の重点

◇自己有用感を高める場の意図的設定

- ・「自分が人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」という感情を実感できる場の設定

→ 自分がどれだけ大切な存在であるかを自分自身で認識 → 居場所づくり

◇一人一人の人権が尊重され、温かみのある集団、人間関係づくり

◇チーム仁多中、組織としての取組の充実

- ・対話を大事にする職員集団、各学年・分掌等が組織として機能する職員集団

9 教育活動を支える基盤

■安心・安全な学校づくり

- ・いじめやからかいを許さない指導の徹底と人権が尊重される学校風土の醸成
- ・「いじめ見逃し0」をめざした組織的な対応と生徒一人一人の居場所づくり
- ・スクールカウンセラーや教職員による教育相談の充実
- ・災害、火災、事故などから生徒を守るための安全指導の充実と管理体制の整備

■家庭・地域との連携、協働による教育活動の推進

- ・学校だより、HP等による情報提供の充実
- ・PTAと協働した教育活動の推進（学年PTA活動、研修等）
- ・地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活用した教育活動の推進（職場体験活動、地域講師による職業講話、ボランティアによる読み語り等）
- ・幼小中連携、中高連携の充実
- ・学校評価（生徒・保護者アンケート）を活かした教育活動の実践